

かも棚同士の横の連結を容易に外せるようにしておけば、傷んだり老朽化したりした棚を入れ換えることが容易だろう。

私はもはやこういう標本棚を試作させる立場にはないので、せまい通路で能率の悪い作業をさせられているキーパーの方々や、移動式を検討し、あるいはすでに導入しておられる機関の方々の参考になればと思い提案する。

試案についてご意見をうかがった国立科学博物館植物研究部の秋山 忍氏、東京大学総合研究博物館植物部門の清水晶子氏にお礼を申し上げる。

#### 引用文献

金井弘夫 1991. 移動式おしぼ標本棚の得失. 植物研究雑誌 66(3):176-180.

(184-0013 小金井市前原町 5-8-7  
5-8-7, Machara-machi, Koganei,  
Tokyo, 184-0013 JAPAN)

## 新刊

□ Tsunehiko Nishikawa (ed.): **Chromosome Atlas of Flowering Plants in Japan. National Museum of Nature and Science Monographs No. 37.** B5. 706 pp. 2009. Library, National Museum of Nature and Science, 3-23-1 Hyakunin-cho, Shinjuku-ku, Tokyo, 169-0073 JAPAN. ISSN: 1881-9109.

北海道教育大学の西川恒彦氏による、日本の顕花植物の染色体数総覧である。1-461 ページは種類別のリストで、種類、配偶体、孢子体、出典の見出しの下に、カウントされた染色体数が、複数の出典があれば年代順に列記されている。植物の配列は科・属・種の学名の abc 順である。発表が現行の学名と異なる場合には、現在に合わせて整理されており、約 780 属、5,700 の分類群が見られる。462-706 ページは、これらの根拠となった約 6,200 の文献のリストである。染色体数は、タクソンを扱うときに重要な情報なので、それを見やすい形に整理して下さった西川氏の永年の努力を評価したい。

近頃は分子レベルの研究が隆盛で、染色体レベルの仕事は影が薄くなった感がある。種類別リストから概算してみると、1910 年代から始まった報告数は、1940 年代の大戦の影響とみられる谷を経て 1980 年代にピークとなり、1990 年代に入って減少に転じている。我国の顕花植物の染色体は数え尽くされたのかということ、そんなことはあるまい。時流に流されず、一つの仕事をやり続ける人がいてほしいものだ。

本書には頒価がついていない。国立科学博物館新宿分館図書室に問い合わせたところ、モノグラフシリーズには元々頒価はついておらず、研究機関や図書館から希望があれば頒布に応じるとのことだった。「こういうリストはデータベース検索できるようにしてあればよい。その方が金も手間

も時間もかからずに情報が得られて便利だ」という声が出るに違いない。確かにユーザーには便利この上ないだろうが、私には首をひねる点がある。そういうデータベースは、担当者の不断の努力なしには維持できない。絶えず更新される結果、参照はできても引用はできない。そして担当者がいなくなれば消滅してしまう。某研究機関のウェブサイトには「本ウェブサイトの情報を無断で転用することを禁ずる」と書いてある。公表している情報を転用（つまり引用）するのに一々許可を求めろというのは、転用されたときにはそのウェブサイトの情報が更新されて変わってしまっていて、作者の責任を問われる心配があるからだろうと思う。だから、ウェブサイト情報として公開するのは作者のサービスとしても、一度はハードコピーとして出版し、情報を固定しておけば、ユーザーは普通の仁義を切るだけでそれを引用できるし、そのハードコピーは作者の業績として残るだろう。(金井弘夫)

□ 柏谷博之: **地衣類のふしぎ** サイエンスアイ新書. B5 版, 206 pp. 2009. ¥1000. ソフトバンククリエイティブ (株). ISBN: 978-4-7973-4153-9.

著者が言うとおり、これは地衣類の専門的な知識の普及のために書かれたものではない。しかし、一般の人々にとって馴染みの薄い地衣類を身近なものと感じ取って貰うためには、本書に収められた彩り豊かな地衣類の写真の数々はそれなりに効果的である。本書は、著者が 40 年以上の調査・研究の途上で撮り集めた地衣類の写真集であるから、こんな形で紹介するには勿体ないような、見事な写真が随所に見られ、折に触れて楽しむことができる。

図鑑を利用するには、それなりの専門知識が必

要であるが、本書はそんなに大上段に振りかぶることなく、身近な地衣類を紹介しながら、地衣類の基本的な特徴を解説し、地衣類に親しみが持てるように工夫されている。初心者が野外観察に携行すれば、採集した地衣の特徴を詳細に観察するための手引書としても利用できる。とは言いながら、学問的な内容はしっかりしており、地衣類の形態的な特性や、地衣成分の調べ方なども簡略に説明されている。また、第6章地衣類とヒトのかかわりは、著者が辿ってきた研究の裏話も含まれ、気楽な読み物となっている。地衣類がこんなにも彩り豊かであったかと、いまさらのように思い直させる一冊である。

煩わしさを避けるために、写真にスケールが与えられていない。背景に写っている木の枝や、顕花植物の花などから、地衣類の大きさを推察できるものもあるが、拡大写真、例えばクロモジゴケ、オオニクイボゴケ、センニンゴケの裸子器などは、実際の大きさを類推する何かの手がかりが欲しいように思われる。(黒川 道)

□ 邑田 仁 (監修), 米倉浩司 (著): **高等植物分類表**. 北隆館. 2009. 190 pp. ¥2381+ 税. ISBN: 978-4-8326-0838-2 C3045.

地球上の生物種は10%程度しか知られているに過ぎないと予測されている。したがって、現在の生物分類体系は不完全にしか知られていない生物種を対象として体系化したものであるといってもよいだろう。高等植物では約25万種が知られており、30~50万種の未記載種が生存しているとする予想がある。また種子植物の推定現存数42万種あまりという2001年の推定値と比較して、2020年頃には80万種が記録されると予測したことがある(大橋広好2002. 分類学私考. 分類2: 72)。これらの前提に立っても、現在知られている範囲の生物種を、現段階で最も合理的に体系化し、生物界の情報を整理できる枠組みを作るとは分類学の重要な役割の一つである。

分類体系作成の基準も形の類似に始まり、現在はDNA上の特定領域の塩基配列を比較して既知の系統関係の補強あるいは改変が進行している。将来は系統推定のためのより一層効果的な手法が開発される可能性もあろう。

この度刊行された邑田・米倉:「高等植物分類表」は現段階でのAPG分類体系を日本植物に適用したもので、現在も改良が進行中の体系である。

1968年に出版された伊藤 洋先生の「新高等植物分類表」を約40年ぶりに改訂したもので、「伊藤新分類表」は新エングラの分類体系を日本に紹介して、その体系の普及に大いに効果があった。内容の簡潔さはもとより利用しやすい新書判であることの手軽さもあり、手元に置いて便利に使ってきた。今度の「邑田・米倉分類表」はAPG分類体系紹介の初めてのもので、その普及に役立つだろうし、前書と同じく新書判であり、厚さもほぼ同じ(前書は130ページであったが、本書ではページ数が増えたにもかかわらず、紙が薄くなり、紙質が格段によくなっている)であるから、大変に使いやすそうである。本書の主体はAPG体系の一覧表で、この新分類体系の説明とエングラやクロンキストの分類体系との相違点についての解説がある。それに加えて新旧分類体系対照表が2種類付けられていて、「伊藤新分類表」あるいはクロンキストの分類体系とAPG体系とが対照されている。APG体系とエングラやクロンキストの分類体系の関連が分かりやすいように工夫されている。

属レベルの分類表はYListのもので、APG分類体系ではない。属の扱いをMabberley's Plant Book 3rd ed. (2008)と比べると、Mabberleyで1属とされる*Prunus*は本書では細分されている点などに違いがある。「伊藤新分類表」と比べてみて一番便利になったことは、沖縄の属が加えられかつ本土の属が網羅されたことである。また、日本でみられる帰化あるいは栽培種の属も大幅に加えられている。属の和名が入られたことは便利だし、属名がイタリック表示に変更されたことは大変見やすくなった。小冊子ながら内容の充実した便利な出版物であり、広く推薦したい。

(追記) 本書の約一ヶ月後に、大場秀章「植物分類表」(アポック社)が刊行された。大場分類表は表題を植物分類表としているが、その内容は維管束植物に限られたもので、邑田・米倉の高等植物分類表と同じ範囲の植物を対象としている。しかし、邑田・米倉分類表はHaston et al. (種子植物) およびSmith et al. (シダ植物)の体系で、大場分類表はMabberley's Plant Book ed. 3の体系で、両体系とも2003年のAPGIIを改良したものであるが、内容は相当に異なっている。したがって、類書と言えども両分類表は異なっていることを理解しておきたい。両書を相補的に使うと分類体系上の問題点が浮かんでくる。(大橋広好)